

2021年4月15日

日本フォレスト株式会社
代表取締役 森山 和浩

森と農地の資源が循環する持続可能な地域づくりがスタート
PLAYFARMと日本フォレスト株式会社が、協働事業のパートナーシップ協定を締結

2021年4月11日に「農園であそぼう！」をコンセプトに農の遊び場・体験の機会を提供するPLAYFARM（(熊本県宇城市／運営：豊福地域・農の未来創造協議会：会長 野村 烈)と、日本フォレスト株式会社（大分県日田市／代表取締役 森山 和浩）は、「森と農地の新たな資源循環モデルの研究を行うためのパートナーシップ協定」を締結いたしました。取り組みの第1弾として、当社が回収した自然木のチップを用いた畑づくりにチャレンジします。

1. 「林業と農業、新たな地域内連携 のはじまり」

日本フォレスト株式会社は、山林の手入れや街路樹の剪定、伐採などから発生した、行き場のない木材をチップ化し、発電用の燃料や工業材料として再利用する事業を展開しており、熊本県宇城市に工場のひとつを構えています。一方、同じく宇城市の農業者有志等で構成する豊福地域・農の未来創造協議会は、地域農業の未来のあり方を模索し、その一つの形として子供の農体験と循環型の農環境の研究を行うPLAYFARMを作っています。

このたび、地域内で発生した廃木材の新たな活用法として、PLAY FARMと日本フォレスト株式会社とが連携し、チップ化した山の資源を活用した豊かな土壌づくりを研究することとしました。

2. 「森から農地へ、資源の循環を見つめなおす」

今回行うのは、山などから回収した自然木の枝や葉を粉碎したチップを畑に敷き詰めることで、森の中と近い環境を再現する試みです。

元来森の中では、落ち葉や枝、朽木などを生物や微生物が分解することで腐葉土の層を形成しています。そこはフカフカで、適度な水分と空気があり、多様なミネラルを豊富に含んだ良質な土の層です。そして、このような土壌で育つ作物は、元気で病気や害虫に強く、しかも美味しいことを、年配の農家の皆さんは経験的にご存知で実践されていましたが、過度な手間の問題などから最近は行われなくなりつつあります。

当社とPLAYFARMは、この農法を再び見つめなおし、アップデートすることで、より豊かな森と土を育てる仕組みづくりにチャレンジします。

3. 今後の展望

- ① 豊かな土を育てるために最適なチップの素材や加工法（直接利用、堆肥化、炭化他）、供給方法などについて実証実験を行いながら、持続可能な森と農村の資源循環について研究開発を進めます。
- ② 研究過程において必要となる新たなパートナーとの連携を進めます。
- ③ 同時に、林業と農業の連携による、子どもの豊かなあそびと学びの環境づくりや地域づくりの新たな仕組みを模索していきます。
- ④ プロジェクトの第2弾は、農業者や農業に関心のある方向けのチップ等木質素材を活用した土づくりワークショップ（仮称）を予定しています（4月下旬～5月中旬開催予定）。
- ⑤ 研究の経過やワークショップなどの情報はPLAYFARMのSNSなどを通じてお知らせしていきます。
- ⑥ 研究の成果については、令和4年春を目途に中間報告会を開催する予定です。



以上

【お問い合わせ先】

日本フォレスト株式会社 熊本工場
担当役員：長谷部
電話：0964-45-2261
Email：hasebe@n-forest.jp